

# 1/43 PENSKE CHEVROLET 1993 A.Senna Complete Model (Circuit Type)



Model Artist  
Model Writer  
*A. Takenaka*  
Acupuncture Takenaka

<http://acustion.com/bbg/>  
<https://acustion.net/shop/>



1/43 スケールは掌サイズに収まる。僅か11.5mm !!



1/43 メタル製フルキット



コクピット&給油口も精密に再現



空力シャーシには、シリアルNo.001が刻印

## 1/43 ペンスキー シボレー 1993 A.セナ (サーキット仕様) 制作/解説/撮影 アクパンチャー・竹中

1993年、A.セナは、インディカーに移籍かと報道された。その背景には、ハイテク化するマシンを嫌ったセナだった。マクラーレン時代からの、メインスポンサーであるフィリップモリス社の協力もあって、テストドライブでもよいから...とインディカーに乗った。今作、ご紹介するのが、ペンスキー シボレー をキット化、それをフィニッシュしたのが、アクパンチャー・竹中である。キット内容は、伝統的な1/43スケールで、ホワイトメタル・エッチング・挽き物・デカール・バキュームパーツ・シートベルト布地・ゴム製タイヤ・真鍮製ドライブシャフトetc.が収録している。インストラクションは、デジタル制作テキストをダウンロードして製作する。モデルマニアにとっては、至福のひとつを味わいながら、「もし、セナがインディカーに乗っていたら...」を再現するキットです。

A.セナ & ヘルメットも制作、ネームプレートも添付される。



ご紹介するキットの、原型制作もアクパンチャー・竹中だ。キット制作着工が2001年の事とで、何と18年近くお蔵入りしていた秘蔵モデルだった。当時は、まだ3Dプリンターがなかったので、もちろん原型制作は手作りである。しかし不幸?か幸福?の18年間眠っていたので、技術は、見違える位進歩して、再起動した。超高度なCNC旋盤・精密エッチング・精密デカールなど、現行の技術を終結して、キットは完成しデリバリーが、最新ネットで開始されたのである。

では、キットの制作について、ワンポイントとしてアドバイスする事とする。ボディは、定番のホワイトメタル製なので、バリ取り・ケガキ・仮組みを念入りに行う事。フロント/リアウイング、ディスクローターは、全てハンダ溶接を行う事を推奨する。サスペンションは、ステンレス製で耐久性があるが、各種アームのサイドエッジを、モーターツールで削り落として丸みを付けるのが、ポイントとなる。足廻りは、特に再限度を高めた所。各数のディスクローターを加熱圧着して、制作。ホイールスピナーも同様に制作して、アルミホイールに装着している。オプションとして、超精密ホイールナットとエアバルブも追加。足廻りをグッと引き立てている。コクピットは、定番の6点シートベルト。エッチングバックルと布地で制作。シフトレバーも取付けて有る。シールドはバキュームパーツで、人間力で接着固定。給油口は、挽き物パーツ2点+エッチングリムで構成。サブ給油システムも同様に制作されている。塗装に関しては、ホワイト・マスキング→モンザレッド+蛍光色をエアブラシ。いかに塗り分け境界線を確り出す事がポイントとなる。デカール貼り後は、お約束の2液性ウレタンクリアーをエアブラシ。過去の作品から、20年立っても経年劣化無いしろものである。と言った、流れて、完成された作品です。プチ制作テキストは、次のページでも、ご覧下さいませ。完全制作テキストは、QRコード又は、<http://acustion.com/blog/> まで。

- ①フロントホイールは、アルミ製挽き物。センターロックナットとエアバルブは、オプションパーツ
- ②リアホイールのタイヤロゴは、エアブラシ、ディスクローターとキャリパーは、エッチング製。
- ③リアテールライトは、樹脂製で製造。ドライブシャフト/ブーツも、緻密に再現されている。
- ④A.セナの墓標となるネームプレートは、1994年。
- ⑤丹精込められて制作されたマシンは、専用展示ベースに、添えられる。(フィギュア&ヘルメット)

専用展示ベースは、カーボン仕様 & アクリルケース付き  
(2枚のプレートとフィギュア&ヘルメット付き)



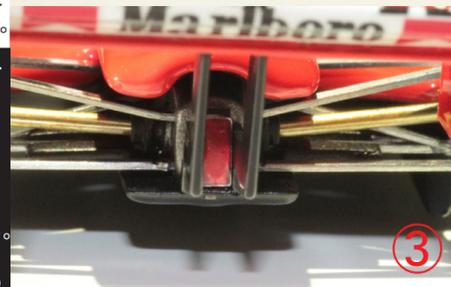
A.セナ愛用のヘルメットの、バイザーは開閉可動。思い入れのホンダ仕様だ。



①



②



③



⑤

## メイキング オブ 1/43 ペンスキー シボレー 1993 A.セナ (サーキット仕様)

複合マテリアルを使用した、メタルキットを、ワンポイントで製作写真を、交えながら解説をします。



- ★ボディのバリ取り・ケガキをして、下地作りをする。
- ★各アップライトのエアインテークを開口をします。
- ★足廻りのパーツを全て揃えて、組立て構成を観察します。
- ★リアエンジン部に、サスペンションとタイヤを仮組み。



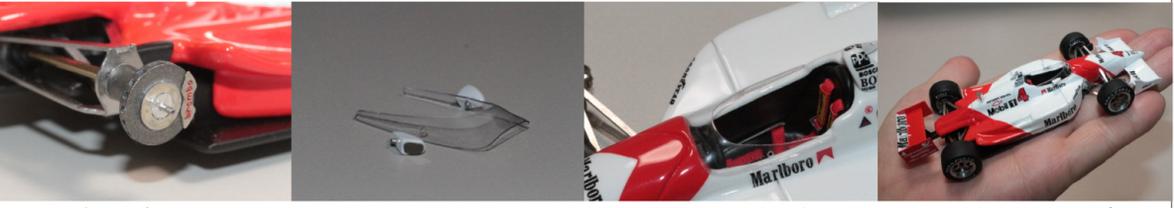
- ★フロントウイングの仮組みをしてから、接着組立てをする。
- ★リアウイングは、ノギスで、ハンダ溶接をします。
- ★フルパーツのフィッティング
- ★キャリパーのロゴに、赤色処理を、完璧に完了します。



- ★足廻りのパーツを仮組みをして、完成度のチェック!をします。
- ★タイヤのロゴは、テンプレートキヤップを使用してエアブラシ。
- ★タイヤの完成状態。
- ★6点シートベルトを制作オプションパーツ追加。シフトレバーも用意。



- ★ホワイト塗装して、マスキングを正確に行う。
- ★ホンザレッド+蛍光色をエアブラシ完了。
- ★各デカールに、気泡無く、綺麗に貼る。



- ★仕上がったディスクローターにキャリパーを装着します。
- ★ウインドシールドは、丁寧に切り揃える。仮組みは正確に。
- ★ウインドシールドの貼り付けは、エポキシ系で人間力です。
- ★完成!! 掌に乗せて、ズッシリ感を味わう事が出来る。